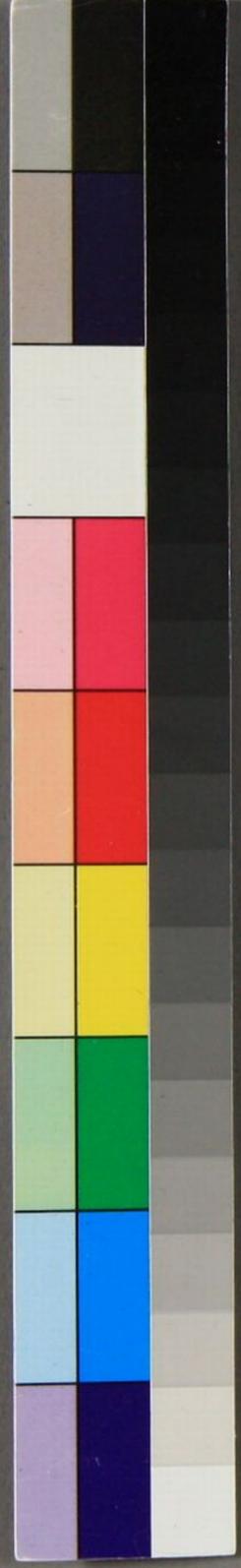


和朝
今昔物語

卷十二
世俗部



今昔物語部 十二目錄

○世俗傳

- 一 比叡山無動寺義清阿闍梨嗚呼繪語
- 二 東國入道花山院清門無禮語
- 三 修徳守後系陳忠落入谷語
- 四 以外術盜食瓜語
- 五 近衛清門蝦蟆語
- 六 嗚呼者怖已影語
- 七 傳大納言侍得烏帽子語
- 八 於近江國篠原入墓穴男語



今昔物語部 十二目錄 一 伊支千歳及

今昔物語 倭部十二

○世俗傳

一 比叡山無動寺義清阿闍梨嗚呼繪語

今いひし。比叡山無動寺。義清阿闍梨とていひ
 僧。ありし所より。寺にのこりて居て。真言とておろく
 かしひ。まにゆるふとせし。年物りまはした。方れおん
 ぶふ出まじ。ありとほいとて。さうとて。さし。方り人
 むぐ。これよしのり。公也さす。らみ。ま。り。わ。く。駿。育。り。
 び人。絵。を。この。ま。て。修。伴。絵。り。よ。み。ち。り。筆。ま。り。あ。く
 えて。さ。り。あ。り。ま。し。た。も。あ。り。一。筆。に。書。き。ら。ん。あ。り。の

今昔物語 卷十二

さあはらひて。わづらひきまらりて。さしどきお
かりし。その書ど。つと紙のうきと。そのいじんわ
まば。物一つ。むらり書て。あふふ。又ある。い端。り。り
射。る。人。の。形。と。う。た。奥。よ。壁。を。書。く。中。の。象。の
ゆ。く。く。と。わ。が。く。て。墨。を。あ。そ。く。引。て。一。り
く。く。あ。ら。い。の。紙。を。り。若。紙。を。と。書。く。と。は。い。と。ど
く。紙。を。墨。を。引。て。あ。ら。い。の。異。物。よ。く。あ。ら。い。と。か
らん。より。の。書。ぶ。ら。う。ゆ。り。かり。と。せ。い。り。り。く。く。あ。ら。い。と。か
と。く。ま。ら。い。と。せ。げ。て。う。か。ら。く。ら。さ。く。一。碎。者。と。て。有
し。う。ば。世。の。人。よ。く。あ。ら。い。と。か。と。せ。い。り。り。く。く。あ。ら。い。と。か

此下本文教行文字
脱落不可解故除之

二 東國入道花山院清門公禮諾

今いひく。東の人。あ。ら。い。と。か。と。せ。い。り。り。く。く。あ。ら。い。と。か
と。く。ま。ら。い。と。せ。げ。て。う。か。ら。く。ら。さ。く。一。碎。者。と。て。有
し。う。ば。世。の。人。よ。く。あ。ら。い。と。か。と。せ。い。り。り。く。く。あ。ら。い。と。か
と。く。ま。ら。い。と。せ。げ。て。う。か。ら。く。ら。さ。く。一。碎。者。と。て。有
し。う。ば。世。の。人。よ。く。あ。ら。い。と。か。と。せ。い。り。り。く。く。あ。ら。い。と。か

院をまわつて、
 門をば馬をまわして、
 其の南面
 二人の馬れたる乃、
 寝殿の南面乃、
 餘りりれ男の鬚黒く、
 又色白く形つと、
 足ゆる教げよ、
 緋の氷子に白帷子と、
 お乃まを、
 節の胡録、
 石俣の二並、
 院をまわつて、
 門をば馬をまわして、
 其の南面
 二人の馬れたる乃、
 寝殿の南面乃、
 餘りりれ男の鬚黒く、
 又色白く形つと、
 足ゆる教げよ、
 緋の氷子に白帷子と、
 お乃まを、
 節の胡録、
 石俣の二並、



忘矢早計けり。さる狐負。あはれ草す。はるらりのふ
 たり。たかろをね。麻毛。うら馬。乃。は。呼。聲。と。て。立。す
 ぐらり。七八。案。経。と。ん。ゆ。り。一。物。ち。り。た。名。の。只。狐。と。れ
 ぬ。お。わ。く。あ。し。て。居。り。り。院。の。下。給。お。て。お。り。
 院。じ。お。の。神。を。お。後。で。て。院。お。へ。り。お。も。も。只。お。り
 ぬ。の。を。も。ゆ。り。せ。て。作。た。れ。ば。皆。ま。ぬ。ぐ。れ。ば。馬。い。ふ。く
 ら。ゆ。り。ん。男。も。総。を。取。ゆ。り。あ。く。さ。る。狐。め。ぐ。ら。り。ん。馬
 平。り。み。成。く。勝。狐。お。く。ら。り。ん。馬。乃。を。案。振。す。れ
 ぐ。り。馬。ま。り。お。く。ん。さ。り。院。お。り。感。わ。り。て。よく。さ。あ。り
 や。海。と。く。ち。あ。さ。せ。あ。り。て。ら。り。の。さ。あ。り。の。さ。あ。り。

らと。取。き。た。れ。ば。男。ら。を。取。く。脇。お。と。さ。み。く。馬。お。の。り
 ぬ。ん。其。間。中。門。よ。人。市。狐。を。て。見。の。お。ぬ。さ。り。り。箱
 一。男。を。お。ち。ぐ。ら。り。て。中。門。よ。る。狐。お。を。ば。る。お。の
 お。く。に。て。け。り。ま。か。中。門。よ。あ。り。ま。り。ぐ。ら。お。た。お。ら。り
 去。と。わ。ん。ど。馬。よ。跳。く。ま。い。こ。け。り。ま。り。わ。り。跳。く。ま。い。て
 ぬ。を。り。く。と。わ。り。其。間。女。男。の。門。を。さ。り。わ。か。ま。洞
 院。の。下。に。飛。が。ぶ。く。い。て。お。さ。り。ぬ。院。い。け。ぬ。い。し
 ろ。と。け。り。盗。人。く。れ。と。作。ら。ま。い。て。わ。か。ら。り。清。り。腹。ま。い
 か。り。り。り。り。り。ん。ぐ。ら。り。け。り。さ。え。ぐ。ら。り。わ。ち。り

三 信濃守を系陳忠落入谷諾

今いひし。任保守友京陳忠 正五位下 菅根孫元方男 やりし人

わり。任國よとて。國孤れさうく。任せりたるはよ

とて。法坂を越し。せやくれ馬ども。人のまへと。あ

怒るる。ほきてゆく程よ。守がまへり馬。怒るの

本張ふと折て。遂に馬に落入る。危何ぞと

あつた深き。千に一つはすてやぶくもれ。鳥等も

皆馬よりやりて。怒るのまへに居る。び。危張んお

ろせども。すべさうく。わされり。何はけり。の

危よ。さぶあふのふこ。ぬい殿のたぐり。とて

あをわした。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

あつた。守いり。猿籠よ。長と繩とつぎ

今昔物語の和朝卷十二

けしきぶかり。是は孤國て猪籠をわらうけり。いふと
 つよあつたまはう終よちがういていひ。はなはきりて
 わり。救人うりていよれ。守猪籠よきて。片ひ
 まは繩を捕へ。片ひよは平草とこねとけり。より
 ねまは懸橋のよみとて。郎等どもよろこびて。是
 いろいろあり平草めり作と問。守答やう。落入る
 けり。馬いよくをよ落入ける。けり。いれり。下は
 くらが。本の枝めとつとてと。ゆる。下に大けり
 本枝れさりけり。ぬきとく。長くろみ。其のこみ
 平草めかく生ても。由こ。い。んすて。けり。まづ



ものなまぶらぎりぬく。猪籠よしくよはら也。い
のうやあつらふ。いんきりぬくやあつらふのうま。
いん損と取はらあつらふとせとせとらふ。即ち
けようこづの汚損よ作とせんと知ふ。守らふこと
あつらふ海軍よ。寶よ。いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。
掃とせんと地なり。受領いんきりぬくよ。出ぬつら
いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。目代を
の内に。あつらふことせんと。いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。
をば。何うぬきとぬきとせんと。いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。
わいんきりぬくよ。いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。

あつらふことせんと。いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。目代を
の内に。あつらふことせんと。いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。
をば。何うぬきとぬきとせんと。いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。
わいんきりぬくよ。いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。いんきりぬくよ。

さききん人のめりてけりしうらたけを。かきりしきん
くろやちり

四 以外術盗食瓜語

今ハむし。七月ごろハ大和國より。抄ゆれ馬ハ瓜を眞
とて。下衆ども。東へより。あつが。宇治のや。たけと。様
やい。本乃りも。いれ。ゆりて。瓜の籠と。わら。息つと
あとも。みるふ。げ。下衆ども。瓜が。あま。切て。合を
ア。う。は。あ。其も。れ。老。や。り。きん。年。い。く。む。り
氣平。足。筋。と。や。杖。よ。と。が。つ。ま。あ。く。下衆ども。が。侍。み
居。く。瓜。く。あ。瓜。志。び。ゆ。り。て。う。の。う。り。と。つ。ま。後。り

く。ん。や。く。あ。咽。喉。か。く。た。て。淋。み。た。め。く。い。ふ。下衆。た。の
い。く。是。の。人。乃。東。よ。は。つ。つ。と。物。と。て。私。物。よ。あ。く。さ。れ。ば。
は。い。く。と。ら。あ。く。い。ぬ。い。ぬ。と。う。い。ぬ。氣。う。み。て。情。あ。ま
ん。と。う。あ。年。も。む。ら。老。瓜。い。わ。く。れ。と。う。い。ふ。そ。よ。れ。事
ま。ま。よ。う。く。き。ぬ。り。ぬ。の。氣。が。瓜。は。く。り。て。く。ら。ん。と。い。は。
下。衆。ども。戯。言。瓜。の。た。ち。や。と。け。い。居。く。ら。ん。氣。儀
く。本。の。う。う。わ。り。け。る。瓜。取。く。く。う。の。地。を。あ。り。て。
畠。乃。中。う。れ。あ。り。て。う。の。下。衆。ども。が。く。ら。ら。じ。て。瓜
の。さ。ね。を。取。わ。つ。ち。び。あ。り。し。の。地。よ。う。ゆ。ら。ふ。程。を
た。く。と。う。て。志。ぎ。り。ら。ら。と。う。た。さ。た。て。瓜。を。り。と。ら。し。地

り大よかりて。つみやく整く。下宿どもこれを刃と。
は霧の神あど。やかりんと。おそれる。處よ。霧の神と取て
切く。サかくらいて後。下宿どもふ向いて。さかられく
とせざり。ばかくはく。り。ゆて。く。さ。り。と。て。下宿ども
め。く。り。せ。道。行。人。を。も。よ。び。て。く。と。せ。く。り。サ。か。く。り。瓜
く。い。は。く。て。後。霧。今。の。ゆ。り。み。ん。と。つ。い。て。ま。じ。り。が。
ゆ。さ。う。な。瓜。ち。づ。り。く。り。さ。う。の。ら。下。宿。ども。瓜。を。負
きて。ゆ。ん。と。そ。ん。ら。に。籠。の。か。り。て。内。の。瓜。の。い。は。く。
め。か。く。何。よ。下。宿。ども。瓜。う。ら。て。お。中。じ。て。く。さ。り。と
サ。く。の。霧。が。我。が。目。を。く。は。く。て。已。が。は。く。り。

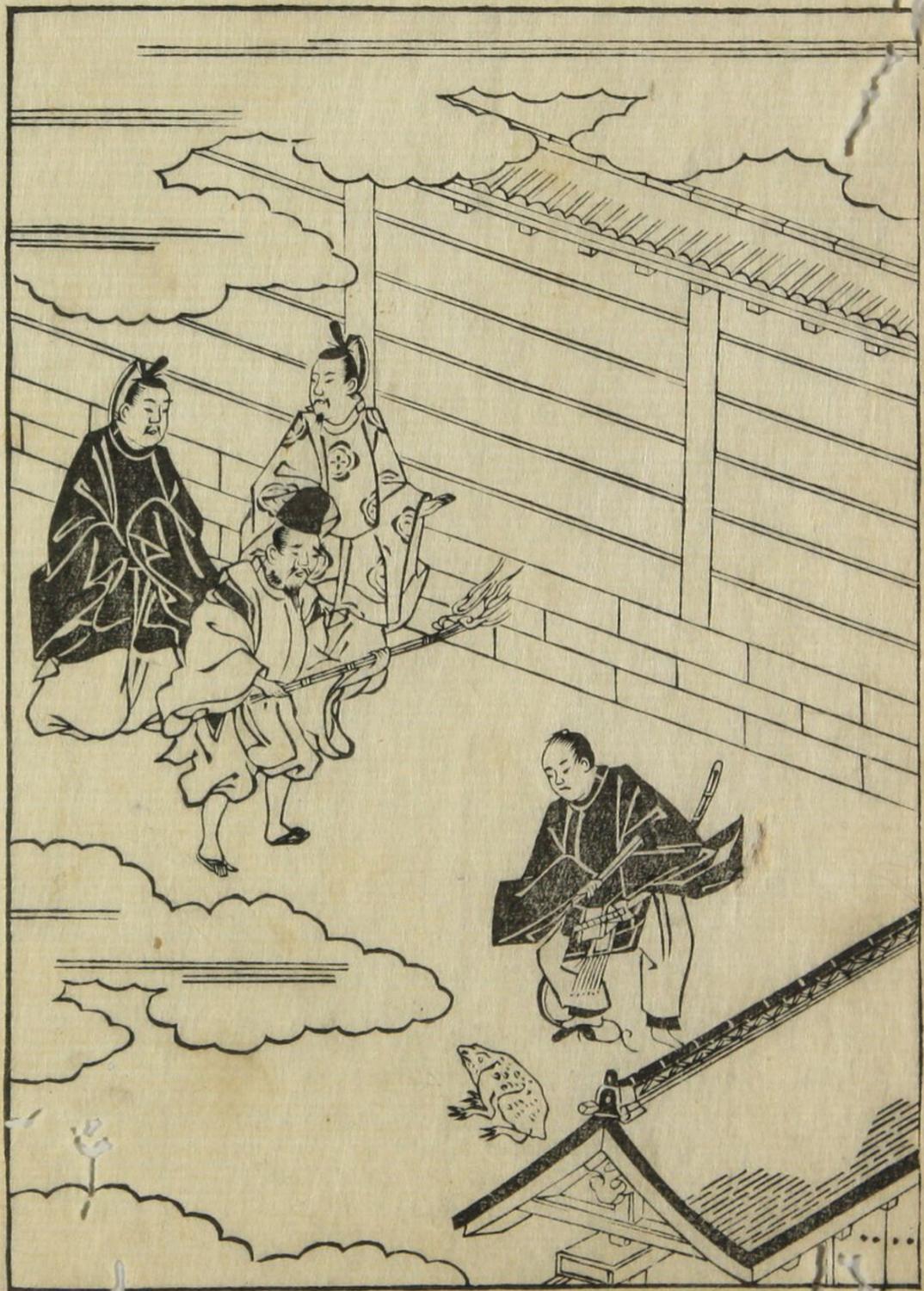
中。の。人。を。そ。霧。の。瓜。を。取。か。く。ん。め。く。秘。く。り。と。く。
事。く。れ。と。取。を。く。れ。た。い。も。甲。斐。あ。く。て。大。和。よ。く。り
け。ら。道。ゆ。く。者。ども。これ。を。み。く。且。の。あ。や。く。且。の。多。い
く。り。下。宿。ども。瓜。を。取。ま。じ。て。こ。う。さ。り。も。霧。の。り。せ
そ。と。ゆ。く。ば。皆。い。と。く。被。ぎ。は。く。れ。と。く。り。瓜。の。霧。が。に
ら。み。く。かく。ま。く。り。か。り。愛。化。の。者。あ。ど。と。や。かり。ん。
介。術。者。た。ど。と。や。かり。ん。多。し。と。い。ふ。と。瓜。志。く。に
して。中。み。よ。く。り。と。や。かり。ん。く。り。傳。え。く。り。と。也
五 近衛清門蝦蟇詔
と。い。さ。く。く。近。衛。乃。清。門。の。内。よ。大。か。り。蝦。蟇。か。り。て

ふどついで。多しののどろて。いしめてらんそ雑色た
よつてひく程。衣狐引やうなれど。大守家よりして
おのが路をゆぐるふ冠を。け雑色ものさうりつと
あいて。其冠を。何しに取つて。う執得とせよ。や
ついで。走やけろろ。近衛大路より。うづにき。衣きて
款をうらうたて。血おきれ。袖をうらて。ゆとろ程
う。道はゆるして。いほくも。やちえど。さほよ。う。か
らうて。火のいろと。えつまて。小家は。ま。う。つ。だ。を
あう。た。き。た。か。む。あ。け。た。れ。び。ら。う。だ。や。い
よ。び。て。其。こ。り。の。溝。れ。を。う。ら。ぬ。ま。し。よ。う。ら。も。夜

あむて。後。家。の。人。ね。と。て。う。ら。に。髪。う。ら。比。し。う
男。表。衣。を。う。ら。が。款。う。ら。う。た。血。は。ま。し。や。う。て。ゆ。ら。
い。う。あ。ら。も。の。せ。と。の。ち。り。た。れ。び。う。の。た。れ。よ。大。守。う。ら
ね。と。て。道。を。う。ら。ひ。て。こ。が。宿。不。帰。ろ。う。い。う。い。あ。
ふ。せ。れ。鳴。呼。者。の。方。を。う。ら。ち。り。そ。お。ら。う。の。お。れ。い。さ
み。の。り。け。ら。狐。洞。つ。と。て。む。語。付。人。う。ら。せ

六 鳴呼者怖已執語

今いひて。受領の郎党に。いねくして。人あはけく
う。て。ひ。と。あ。男。方。を。う。ら。あ。る。日。曉。う。お。い。ゆ。を。う。て
用。意。け。ら。ぬ。其。妻。未。領。よ。ゆ。と。て。小。倉。物。の。の。け。を



きんぎょをくまがとらゆかひぬまこれい盗人ね盗い
うりうりゆかひ盗くおをを奉てさけびくればあまが
く盗人いんちくおまをりそのどちうい盗子れい盗ま
のりうりかりといふたまねさわがらん盗人
あけさへ長き盗つて裸なる賜とうねくも盗福ふ
つて其ぬいほふりお許よ入本く物あまをさん
や盗人ぬ盗子ぬふりおをてまへうり入て志げあ
ゆいばりねどりうりあてゆ和清許のほあて
ういあがけらぶといふたれい妻いあをれてぞ多
く。後はあまがうりは盗らぬ因傳てのくさん諸うりあ

七 傳大納言侍得鳥帽子詰

今いじり傳大納言

藤道綱東宮傳故号
傳大納言兼家公男

やういふ人れ

とくきみみ道徳といふ家の一條の方きり。其家み

いさくはらりてゆあり。字は内名といひ。び内名が

其家よ教養よりしが鳥帽子と名くしてもらひ

咄損ぐけきり。夜智いなり。宿直壺屋よ神とてあり

ふりこも長より。大納言これを聞多し。ふ俊しお

もられきり。びの鳥帽子とこれきり。きりてきり

りりけきり。ゆきりの鳥帽子をきり。壺屋よりありて

服軍ごのみ向いて。まきり。これきり。寺冠は冠乃

得てきんや。一乃大納言の侍舊鳥帽子とてきり。ゆ

りりてきり。とて。頸と持て。きり。きり。袖ありて

て長より。きり。きり。きり。きり。きり。きり。きり

はきり。きり。きり

八 道江國藤原入墓穴男詰

とい昔。美法國へゆきり。下衣男。道江の國を隠し

つみ。雨風をりり。空く。きり。きり。きり。きり。きり

きり。きり。きり。きり。きり。きり。きり。きり。きり

きり。きり。きり。きり。きり。きり。きり。きり。きり

きり。きり。きり。きり。きり。きり。きり。きり。きり

ちかたにまけまじはまの鬼あつてくらのいこまひる
 ちや。おろんからけつて。おろ物と善いとも控
 ちや。あけてまきいびんぐりの男。さしびんせ人おあり
 ちや。餅をくひふねをむく。あげらるなり。よく
 ちいてぐりとあいて。控まら物紙さぐれい物一とい
 ちや。袋と。麻乃はまてけらり。善いともあつて。良
 法よりのがりら。奴ちや。のりくうもどす
 ちや。あいて。おれららよは袋紙負く。善いともあつて。良
 墓穴をむくゆきくろふ。のりかつら。奴ちや。人里か
 ちや。げ事とくうて。人を具してやあつたとあつ

ば。まぶらうく。て。けつらふんまれなる命のちや
 ちや。まて。まづ。あつたおれまら。何れ。の袋を
 ちや。てんけま。絹布綿を紙一とい入る。ちや
 ちや。ま。ま。天のあま。と。う。て。ちや
 ちや。と。く。ゆき。ちや。ちや。ちや。ちや
 ちや。ちや

今昔物語十二



竹譜
卷之
一
上

一
上

